

皇室

点描

No71

モーニング姿の天皇陛下がグレーの手袋とシルクハットを手に携え、私たちの前に登場されることがある。先月の全国戦没者追悼式や、国会開会式、陵墓への参拝など。いずれも重要な行事だ。

陛下がああシルクハットをかぶられる機会はあるのだろうか。疑問がわき、側近に聞くと、「公の場では見たことがない」という答えだった。服飾史家の中野香織さんによると、馬車や屋根の高い自動車が使われた戦前は、格式

天皇陛下とシルクハット



シルクハットを手に持たれる天皇陛下 (2020年1月20日)

の高い場では帽子をかぶり、手袋を着用するまでの一連の所作がマナーとされた。だが戦後、屋根の低い自動車主流になると、世界的に帽子はかぶられなくなったという。皇室の記録写真を調べる

と、昭和天皇や上皇さまのシルクハット姿は見つかった。最近の陛下がかぶられた姿は、見当たらなかつた。手に持つスタイルは「時代に合わせつつ、伝統も大切にした結果だ」と宮内庁は説明している。ただ近年は、皇族方がシルクハットを持参される機会も減っている。かつてはシルクハット姿の皇族方も見られた



シルクハット姿の上皇さま (1953年2月24日)

誰も持参されていないそうだ。 社会部 鈴木貴曉